



広島県

宮島

広島県宮島

面積30.39平方キロ。人口約1,800人。広島湾の最西端、広島県廿日市市に位置する日本三景の一つ。江戸時代から瀬戸内海の交易都市、商業都市としてにぎわう。1996年、広島市内の原爆ドームとともに、厳島神社と周辺の景観が世界遺産に登録された。もみじ饅頭や杓子が有名。観光客は年間約350万人、うち外国人は約10万人。外国人観光客が多いため、地元の小中学校では国際理解教育も盛ん。

々の知恵を途上国へ

「神の島」として、古くから人々に崇められてきた宮島。日本三景の一つでもあり、国内のみならず、世界的な観光地としても有名だ。長年にわたり、地域の人々によって支えられてきた宮島の「観光」は、途上国の観光振興のヒントにもなっている。

【広島県】

宮島



宮島のシンボル「厳島神社」を見学する観光客。干潮時には歩いて渡れる大鳥居は世界的にも有名で、外国人観光客も多い

「神の島」に生きる人



パークボランティアと島内を視察する研修員たち。観光地でありながら、地域の人々の努力により守られた空間を目の当たりにし感動していた



宮島伝統産業会館では、もみじ饅頭作りを体験。観光客が参加できるアクティビティーが増えることで、滞在時間も長くなる

上、島の観光を支えてきたキーパーソンだ。島内の建物の建設や木の伐採についても、さまざまな規制が設けられているという。宮島は、四季によってさまざまな楽しみ方ができる。水中花火大会やかき(牡蠣)祭り、清盛まつりなど、季節の魅力を伝えるための行事が開催されており、毎年心待ちにしているファンも多い。

宮島の観光ノウハウを学ぶ

観光のモデルケースともいえる宮島は、JICAの研修「持続可能な地域観光振興」の舞台にもなっている。開発途上国の省庁や自治体、NGOなどで観光開発に携わる人を対象に、15年も続いている老舗コースだ。

第一回目からコースリーダーを務める、広島大学大学院社会科学部研究科の戸田常一教授によると、「アジア、アフリカ、中南米、中東など、世界各地から研修員を受け入れているのですが、それ故に、彼らが抱える問題も幅広い。世界遺産保護や地域ボランティア育成など、宮島には、観光についての包括的に学べる要素がそろっているのです。かつては他の観光地でも行われてきた研修を、宮島を中心としたプログラムに切り替えた。

毎年、最初に研修員たちが取り組むのは、自分たちの足を使って、宮島について知ること。地元のパークボランティア*の説明を受けながら、

島の文化や人々に触れ、地域の資源の生かし方を肌で感じる。その上で、観光協会、土産物屋、地域の人々、観光客などを対象に、「若者の観光活動への参加」「環境」「地域住民を巻き込んだ体験型観光」など、テーマに基づいて話を聞く。

「宮島の問題は、地域の観光振興が抱えるものとして、彼ら自身の国とも重なるはず。この分野で生じうるさまざまな課題について、あらゆる視点から考えてもらうことが目的です」(戸田先生)

昨年の研修員たちは、地域の人々と調査結果を共有するため、宮島小中学校で発表会を開いた。「島の観光を持続させるためには、若い世代の参加が不可欠」「エコツーリズムをもっと推進すべき」「伝統工芸の体験型プログラムを増やして観光客と職人の交流の場を増やしては」など数々の鋭い指摘に、生徒や保護者も驚きを見せていた。

「研修員からの指摘で気付かされることも多いんです」と浜田さん。「時代の流れに伴い、宮島も『変化』が求められています。私たちも、彼らとともに試行錯誤しています。現在も、自治体、企業、地域のNGOとの連携を強化しながら、新しい観光のカタチを模索しているという。

宮島と途上国。地域の資源を誇りに、より良い観光振興を目指し、それぞれの取り組みは続く。

日本が誇る、一大観光地を訪ねて

6月下旬の蒸し暑い日、広島市内を走る路面電車の終着駅、宮島口からフェリーに乗った。平日でそれほど混んではないが、乗客のほとんどが外国人であることに気付く。目指すは「宮島」。世界的な観光地として有名な場所だ。

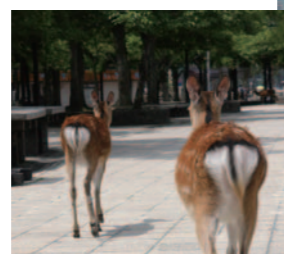
フェリーターミナルに降り立ち、外に出ると、人なつこい鹿たちがお出迎え。彼らとともに海沿いを歩いていると、目の前に、かの有名な「厳島神社」が現れた。海中に浮かぶ朱塗りの大鳥居と寝殿造の社の美しさに、思わず言葉が失う。その後には、青々とした弥山原始林が広がっていた。

宮島を訪れる観光客は年間約350万人。1998年に厳島神社が世界遺産に登録されてから、その数は急速に増加したという。日本人にとっては、修学旅行や遠足の定番。家族でも、友達同士でも、あらゆる楽しみ方ができる観光地として幅広い層に人気だ。

そんな島の観光を支えてきたのは、言うまでもなく、宮島に住む地域の人たちだ。島の人口は、わずか1800人。その約7割が、何らかの形で観光産業に携わっている。

「地域の人たちは、自分たちで『神の島』を守っていくという意識が高い。観光客が増えても、『宮島らしさ』を失わずにいられる理由はそこにあります」。そう話すのは、社団法人宮島観光協会の浜田敏博事務局長。20年以

自然や遺産があふれる宮島の魅力に、世界中の観光客が魅了される



宮島小中学校の子どもの前で発表。研修員自身が感じた宮島の魅力や問題点、解決策などを伝えた



*国立公園の管理に参加する地域ボランティア。自然保護の普及啓発を図るため、観光客を対象に環境教育を兼ねたガイドなどを行っている。